

第2回世田谷版気候若者会議 実施報告書

(1) 会議の概要

日時	令和7年12月7日
場所	世田谷区立教育総合センター 研修室(たいよう)
参加者	21名
テーマ	「わたしたち」が気候変動を止めるためにはどうしたらいいか考える

(2) 第2回会議のプログラム

時間	内容
13:00～ (5分)	○開会・あいさつ・ガイダンス
13:05～ (30分)	○基調講演「環境問題への取り組み方」 講師:株式会社ピリカ 朝緑 高太 氏 ※質疑応答を含む
13:35～ (10分)	○インプット・トーク ・環境アンケート(モニター)の結果報告 ・第1回世田谷版気候若者会議の振り返り
13:45～ (35分)	○グループ討議「「わたしたち」が気候変動を止めるためにはどうしたらいいか考える」 <u>ステップ1:マイアクションから「気候アクションの担い手」となる要素を考える</u> 1:個人でマイアクションを振り返る 2:各自のマイアクション発表とインタビュー形式でディスカッション 3:付箋を「マイアクションの」周りに貼るかたちで模造紙にまとめ、「気候アクションの担い手」となる要素を考える
14:20～	休憩
14:25～ (40分)	<u>ステップ2:自分たちが「気候アクションの担い手」になるために必要なことを考える</u> 1:5年後くらいの自分が「環境のことを自分ごとにして動いている人 だったとしたら、どんなふうになりたいか、どのような役割を担いた いかをキーワードで付箋に書き出す 2:1で書いた付箋の内容を共有する 3:「なりたい姿」「必要な力」を考え、付箋に書き出す 4:「必要なこと」を考え、付箋に書き出す 5:模造紙の内容をまとめる/グルーピング化する
15:05～	休憩

15:10～ (50分)	<u>ステップ3: 支援策のアイデア出し</u> 1: ステップ2の模造紙を見ながら、「こんな支援策があったらいいな」というアイデアを、付箋に書き出す 2: 付箋を共有し、模造紙にまとめる／グルーピング化する 3: 2の中から、「これはぜひ提案したい」というものを1～2個選ぶ 4: アイデアシートの『交差性チェック』の表で、各観点について○／△／×をつける 5: 全体で共有する
16:00～ (25分)	○全体共有
16:25～ (5分)	○閉会・アンケート記入

(3) 基調講演

「環境問題への取り組み方」

講師: 株式会社ピリカ 朝緑 高太 氏

【基調講演の内容】

- ・株式会社ピリカが取り組む「ゴミの自然界流出問題」について
- ・観察・俯瞰の重要性について
 - (観察)
 - 研究でも活動でも「自分が得た一次データ」に価値がある
 - AIで調べられる時代でも、自分で見て集めたデータは誰にも否定されない
 - (俯瞰)
 - 海外では日本のように気軽にゴミ拾いができる環境ではない例も多い
- ・ピリカの具体的な取り組みについて
(ゴミ拾いアプリ、調査事業、企業との協働 等)



株式会社ピリカ 朝緑 高太 氏

【質疑応答のまとめ】

- ・Q1 文系でも環境分野で活躍できるのか。キャリアの入口が狭く感じる。
(回答)
- ・文系出身で環境分野の仕事に就いている人も多い。
- ・法律・国際業務など文系の強みを必要とする企業も多く、文系だから不利ということはない。
- ・Q2 ごみ拾いのマップに投稿する人は個人か、団体か。大通りに集中している理由はあるか。
(回答)
- ・個人のSNS投稿の方が多いが、ボランティア団体・企業・自治体など、多様な主体が活動している。
- ・個人活動は見えにくいいため、MAPにより可視化している。
- ・スライドは一部地域であるが、実際には広く分布している。

・Q3 ごみが少ないエリアは治安が良いと考えられるか。防犯領域での活用可能性はあるか。

(回答)

・海外ではごみと治安に関する相関関係が報告されている。

・投稿がない場所は活動者が通っていないだけの可能性もあるが、防犯での活用の可能性は十分にある。

・Q4 環境分野に関心はあるが、環境団体に入るのはハードルが高く感じる。朝緑氏はどのように関心ごと仕事をつなげてきたのか。

(回答)

・私自身も、寄り道をしながら環境分野の仕事に就くこととなった。

・行動している人は相手にも伝わるため、深く心配せず、チャレンジすることが必要ではないか。

(4) 成果

ステップ1:マイアクションから「気候アクションの担い手」となる要素を考える

〈第1回の振り返り〉

内容	結果	今後の工夫点
家庭で植物や野菜を育てる	<ul style="list-style-type: none"> ・買いに行くことができませんでした。 ・植物を植えるための容器をこだわろうとした結果です。 ・親のものをかわりに世話したが、続きそうにない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふだん触れるところで育てる。 ・買いに行くのではなく、オンラインで購入する。
電車やバスをあまり使わず、自転車で移動する	<ul style="list-style-type: none"> ・移動の時、すごく寒い。汗をかいて余計に寒い。 ・自転車が壊れかけた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車を点検する。 ・冷えない工夫。
古着の購入	<ul style="list-style-type: none"> ・古着をメインで購入することはできた。 ・中身を写真で撮ることはできず、似たような服が多くありそう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・似たような服の購入を減らすことで、輸送や製造で使用されるエネルギーを減らす。 ・素材への配慮。
10分早く寝る	<ul style="list-style-type: none"> ・日によるが、大まかには意識的に実行できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夜は入眠まで早めから照明を暗くして過ごすようにしていたので、環境のためにもこの取り組みを今後もより意識していきたい。(冷暖房よりも)
エアコンは真冬まで使用しない／家の中では厚着等で対応する	<ul style="list-style-type: none"> ・できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングなどの共有スペースでも波及させたい。
普段使用しているもの(文房具、服、飲食店、…)について製造過程などの環境への負荷を調べる(買う機会があればそれを参考に)	<ul style="list-style-type: none"> ・企業のサイト等を調べて参考にはしたが、成果品は作れなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物の際に、逐一商品についてメモしておけると良い。
ビーチクリーンを開催する!	<ul style="list-style-type: none"> ・開催はできた。 ・他団体と日程が重なり、ゴミが少なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加人数を増やす。 ・協賛等を募る。
長く使えるものを購入する	<ul style="list-style-type: none"> ・行動できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・洋服などは、買う前に考える。
リサイクルショップの利用	<ul style="list-style-type: none"> ・行動できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時期にあったものを売る。
マイボトル	<ul style="list-style-type: none"> ・嗜好品はいっぱいあるけど、生鮮食品は使えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・冷蔵庫のものを把握する。
フードロス削減のために、賞味期限が近い商品を購入	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパーに行ったときに、賞味期限の近いお弁当を購入した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンビニやスーパーに行った際は、賞味期限が近くなっている商品に意識的に目を向ける。 ・購入済みの商品でも、賞味期限切れになって食べられなくなった食材があった。全て無駄なく食べられるか予測して購入すべき。

内容	結果	今後の工夫点
環境に配慮した商品を買う	<ul style="list-style-type: none"> ・環境配慮よりも値段やデザインを優先して選ぶことが多かった。食べ物などは、賞味期限が近いものを選ぶこともあった。 ・まずはウェブサイトで企業がどのような取り組みを行っているか調べてみる。買う前に環境ラベルをチェックする。 	—
地域のリサイクルスポットの場所・内容(どのようなものを提供できるか)を確認する／可能であれば持ち込んでみる	<ul style="list-style-type: none"> ・確認できたが、家から近いとは言えなかった。 	—
世田谷区の再生可能エネルギー生産率(他自治体での太陽光エネルギー？からの購入先)を調べる	<ul style="list-style-type: none"> ・調べ忘れた。 	—

ステップ2:自分たちが「気候アクションの担い手」になるために必要なことを考える
〈なりたい姿・必要な力〉

Aグループ(付箋)
行動するメリットを知ってもらう
何気ない行動が気候変動の対策につながっていることを周囲も気付けるようにしたい
環境を考えた行動は実はハードルが低いことを伝えられるようにしたい
子どもたちに分かりやすく伝える力
自分の言動がどのように環境に影響するのか、正しく調べたり、発信できるようになりたい
SNSで発信
気を引くデザイン
正しく、分かりやすく伝える能力
食べ物の大切さを伝える力
楽しいとか面倒くさいじゃなくてポジティブな気持ちをもってもらう
本当に必要なものだけしか買わない人になりたい
自己管理
本当に必要なものを見極める力
日常生活で自然環境に良い選択ができる人になりたい
環境に良いものを購入
環境に良いものとは何なのか知る必要がある
環境のイベントに参加するのではなく、企画する側に行く
イベント等の企画力
おもしろそうと思わせる企画を作る発想力
開催するメリットをアピールする力
農家さんとの交渉力
まず自分から始める力
保育園で子どもと畑を作り、食べ物の大切さや大変さを教えられる保育士になりたい
野菜を育てるスキル
周りの人を巻き込んで環境問題に取り組む
問題にぶつかった時、どう対応できるかという判断力
どんな問題があるか考える力

B グループ(付箋)
ミニマリストになる!
環境博士になる
環境のイベントを広める人
コンポストを利用して生ごみゼロ、プラ系のごみのみ処理するように
断熱を意識した家をつくりたい
レジ袋の値段を高めにする自治体を増やしていく
環境勉強会の開催、フロー作成
ポスターとかイベントについての情報を広めてほしい
環境住宅の増加、建て替え推進
レジ袋は1袋 50 円か 100 円にする
新しい物を売るときに、お一人様1つまでなどのルールを作る
各家庭にルンバを支給し、ルンバで部屋を掃除できるようにする
給水スポットを増やしてほしい

C グループ(付箋)
共有スペースにおける電力消費量、電気代を可視化する
消費量のシミュレーションを普及させる
購入した商品とその環境負荷が自動的に可視化されるようなシステムをつくる・広める←電子決済が更に導入されているはず。家計と結びつけられれば
コンポストをしている
災害時にも役立つような自然発電を取り入れて生活している
自給自足的な生活が当たり前になっており、自分の体と家1つで何でも完結する
長く使え、長く愛せる物を買う習慣が定着し、買い物の選択の質が上がっている。思い切った選択を自信を持って行えるようになっている

D グループ (付箋)
環境事業 パタゴニアのような環境事業における成功
地球を大切に感じられるような空間づくり
環境問題解決で生活していく、稼ぐ、ビジネスとして成立してほしい
環境団体の参加ハードルが下がっていてほしい コミュニティが形成
特に夏、太陽の反射光がまぶしいから、住宅街とかの道路やタイルなどを考えてほしい
正しい知識を持つ
興味ある異常気象と環境教育についての知識をもっと活用
教育事業
環境に興味がある人以外も参加しやすいイベント
所属団体の CSR、ESG
投票する 選挙政策への注目
投票率の上昇 オンライン投票の仕組みとか？
インフラを通して発電する
エシカル消費を日常的にできている
移動手段を考える
大量に物を買すぎない

E グループ (付箋)
環境問題、アクションについて正しい情報を収集する
5年後、自炊を行う際に食材をムダにしない料理方法を提案・実行→SNS や家族に教えたり
食べ物をムダにしない! (使わない物は冷凍するとか…)
5年後、自分の食べ物の消費量を理解して、食品を購入
5年後、流行りの服を買う際、長く着れるかどうか先を見越した購入ができる

Fグループ(付箋)
環境教育 ボランティアなどでワークショップや講義の運営を行いたい 子どもに限らず、環境に詳しく伝えられる人材になりたい
NPO 団体 清掃・おまつりなどの参加→人脈の構築→地域の子どもたちなどに話す機会など! おまつりのごみの分別大事!子どもに楽しく教える良い機会になるのでは
教科横断的な学習で、環境を絡めた教材を活用する
絵本を描く
”家計”と”環境”に優しい生活を心がける
環境に優しいエアコンを安く売りたい
バス利用を身近にするために働く(路線を増やす、運賃を下げる、子育て世帯へのチケット配布)
行政の人になって交通渋滞をなくすために働く(道幅を拡げる、一方通行を調節する)
子どもと地域の環境イベント(学び、ごみ関係、人との交流)に参加する
自然と環境保全をからめた活動
地域に寄り添った環境保護活動
企業の環境対策強化促進 資格など取っておきたい(防災、環境保護)

<必要なこと>

A グループ (付箋)
正しい知識の取得
情報収集をする
人に上手に伝える能力
多くの人の目に止まるようなデザインやマーケティングの研究
学校で環境について話をする
伝える場を作る
正しい知識や情報を習得するための講義
分かりやすい環境に関するサイトの作成
環境に優しい事業や製品製作の推進
ファクトチェックの推進
気軽に参加しやすい場所の提供 (駅から近いなど)

B グループ (付箋)
交友関係を広げる
自分の環境についての知識を増やす
プレゼンをうまくできる人になる
環境についての勉強、イベントへの参加
建築について勉強する 材料や施工方法など
常にマイバッグやマイボトルを持ち歩く
ポスターを増やしたり、紹介する場を設ける
自分の趣味とは違う趣味の友だちを作る
ミニマリストの友だちやインフルエンサーのまねをする
役所の仲間たちと環境に対してどれほど意識しているか話し合う。その中で改善すべき点は共有し合う。
イベントに参加した景品などに費用を使う
毎週新しい物を売らないでほしい
イベント参加時に公休になる制度
補助金の新設
生分解性の袋のみにする
レジ袋の値段は、国・その自治体との合意をうまく得た上で上げるようにする
友だちやネットに流されず、自分に必要な物だけを買うようにする

C グループ(付箋)
「見える化」システムの利用者のニーズを把握
賛同・協力する仲間づくり
アプリの周知 家族や友人にすすめられる 大学や社内でアプリを利用させる
知識と問題意識を持ち続ける、アップデートしていく
公私共に生活の中での移動を減らす
消費の可視化 学内や社内に電気代を周知させるポスターやメール
環境への意識向上、金銭的・技術的支援
供給の可視化 自転車発電など健康と組み合わせて、自分の供給量への貢献を可視化させる 大学や区の施設に設置し、いつでも利用できるようにする
大企業が私たちの意識(認識)よりも先にどんどんエコなサービスを提供していく
デジタルデバイドをなくす
あらゆる側面での IT 化促進
格差解消
国、自治体によるシステムの統一化
見える化システムの広報
製品情報の提供(企業)
経済的≒時間的余裕の確保
地域共同体のつながりを強める
スペース・環境の広さの確保
利潤ばかりを追求しない

D グループ(付箋)
自分たちの活動が可視化できるように
学んだことを発信する(SNS、地域イベントなどで)
環境イベントを調べる
情報収集
情報の収集、発信 最新かつ正確な
企業・専門家とのつながり
企業や地域は環境活動についてもっとアピールする
環境教育
一般市民も環境への影響を考えられるように教育に力を入れる
団体・企業・活動などの一覧表
学生のうちから参加できる場の提供
世田谷区の環境アンバサダー的な資格?バッジ?
環境に優しい製品の拡充 当たり前にする
事業への行政による継続的な支援(最後まで)
世田谷区から認証マークをつくる(環境に優しい取り組みをしている企業が分かりやすくなるように)
発表する場
音が出るピアノの階段のように振動で発電して一種の観光名所をつくる

E グループ(付箋)
ごみ拾いや環境についての講義が聴けるイベント、ボランティアの参加→環境に意識が向く、正しい情報を得やすい
情報リテラシーを高める
友だちと情報を共有する(良いモノ、コトがあった時に「これ良くない?」と送り合う感覚)
学校や企業で消費期限が近い食品をレストランやお店から取り寄せて売店で売ってほしい
ラベルレスのボトルのように、企業・行政の取組を環境について知るきっかけにする
食べ物が毎日どのくらい廃棄されているか、数値が SNS、インスタグラムでチェックできるようにしてほしい
入社する際に私たちの会社は環境のためにどのようなことをしているのか説明するシステムを導入する
消費期限が短い食品にシールを貼って、それを集めると景品がもらえる

F グループ(付箋)
環境に関する知識を深める
英語ができれば外国の人とも話せる
文章力 表現力 コミュカ
教材の開発 授業実践事例の共有・発信
絵本の作り方、販売方法を調べる
防災・環境系の資格
人脈・信頼
講演会の実施
学校:課外活動のサポート、参加呼びかけ、イベントの紹介(ポスター等)
イベント一覧が掲示板・SNS に公開される
1日乗車券を発信、イベントを行う
環境負荷の少ない製品は税金下げる
交通渋滞を把握して、対策・実行!
バス会社と連携して、バスの利用者を増やす取組
企業や行政によるポイントバック等キャンペーン実施
イベントの主催

ステップ3: 支援策のアイデア出し

A グループ

1. 支援策の基本情報

支援策アイデア名	Welcome Place
分野 (該当するものに○)	<input type="checkbox"/> モノの選び方 <input type="checkbox"/> 食生活 <input type="checkbox"/> 住居 <input type="checkbox"/> 移動 <input checked="" type="checkbox"/> 学び・イベント <input type="checkbox"/> その他()
主な主体(該当するものに○)	<input checked="" type="checkbox"/> 世田谷区 <input type="checkbox"/> 学校・教育機関 <input type="checkbox"/> 企業・お店 <input checked="" type="checkbox"/> 地域団体 <input type="checkbox"/> 若者自身→個人
この支援策で特に応援したい若者像	例:アルバイトで忙しい高校生/一人暮らしの大学生 など自由に記入 ・環境問題について、実物を交えてより発信したい人

2. 支援策の内容

(1) どんな支援・しくみか(具体的なイメージ)	・誰もが参加しやすい場所の提供 ・駅から立ち寄りやすい ・展示だけでなく、クイズ形式にするなど
(2) この支援で、どんな行動変容を応援したいか	・環境への興味関心が薄くとも、立ち寄ったことで考えるきっかけになる。
(3) 期待される効果(環境面+それ以外のよいこと)	・環境に配慮した行動の増加 ・より多くの人に伝えるための工夫 ・環境イベントの開催の増加

B グループ

1. 支援策の基本情報

支援策アイデア名	水と氷で地球を冷やそう
分野 (該当するものに○)	<input type="checkbox"/> モノの選び方 <input type="checkbox"/> 食生活 <input checked="" type="checkbox"/> 住居 <input type="checkbox"/> 移動 <input type="checkbox"/> 学び・イベント <input type="checkbox"/> その他()
主な主体(該当するものに○)	<input checked="" type="checkbox"/> 世田谷区 <input checked="" type="checkbox"/> 学校・教育機関 <input checked="" type="checkbox"/> 企業・お店 <input type="checkbox"/> 地域団体 <input type="checkbox"/> 若者自身→個人
この支援策で特に応援したい若者像	例:アルバイトで忙しい高校生/一人暮らしの大学生 など自由に記入 ・外で働いている人 ・経済的な理由で水を買えない人

2. 支援策の内容

(1)どんな支援・しくみか(具体的なイメージ)	・区の施設に導入する ・アプリで回数を決めるなどして、特定の人が沢山利用しないようにする。
(2)この支援で、どんな行動変容を応援したいか	・マイボトルを増やす ・熱中症対策として
(3)期待される効果(環境面+それ以外のよいこと)	・ゴミの減少 ・熱中症予防の啓発 ・経済的支援 ・情報の掲示 ・自動販売機の利用を減らす

3. 交差性チェック(多様な若者への届きやすさ)

観 点	○	△/×	メモ(どんな工夫が必要?)
お金の負担は大きすぎないか		×	少しずつ広める
時間の負担は大きすぎないか(部活・バイト・家の手伝い等との両立)	○		
移動しやすさ・バリアフリーはどうか	○		
日本語が得意でない人にもわかりやすいか	○		
人が多い場や対面が苦手な人にも参加の余地があるか	◎		
その他、届きにくそうな若者はいないか		△	

C グループ①

1. 支援策の基本情報

支援策アイデア名	電子決済と環境負荷を組み合わせたアプリ
分野 (該当するものに○)	<input checked="" type="checkbox"/> モノの選び方 <input type="checkbox"/> 食生活 <input type="checkbox"/> 住居 <input checked="" type="checkbox"/> 移動 <input type="checkbox"/> 学び・イベント <input type="checkbox"/> その他()
主な主体(該当するものに○)	<input checked="" type="checkbox"/> 世田谷区 <input checked="" type="checkbox"/> 学校・教育機関 <input checked="" type="checkbox"/> 企業・お店 <input checked="" type="checkbox"/> 地域団体 <input checked="" type="checkbox"/> 若者自身→個人
この支援策で特に応援したい若者像	例:アルバイトで忙しい高校生/一人暮らしの大学生 など自由に記入 ・節約をしたい全ての人

2. 支援策の内容

(1)どんな支援・しくみか (具体的なイメージ)	・消費した金額と商品の環境負荷を可視化させる ・評価に応じてポイント還元
(2)この支援で、どんな行動変容を応援したいか	・アンケート調査で上位を占める経済意識と環境を組み合わせ、意識改革をする
(3)期待される効果 (環境面+それ以外のよいこと)	・節約と環境への当事者意識が上がる

3. 交差性チェック(多様な若者への届きやすさ)

観 点	○	△/×	メモ(どんな工夫が必要?)
お金の負担は大きすぎないか	○		
時間の負担は大きすぎないか (部活・バイト・家の手伝い等との両立)	○		
移動しやすさ・バリアフリーはどうか	○		
日本語が得意でない人にもわかりやすいか	○		
人が多い場や対面が苦手な人にも参加の余地があるか	○		
その他、届きにくそうな若者はいないか	○		

C グループ②

1. 支援策の基本情報

支援策アイデア名	(ふるさと)環境納税
分野 (該当するものに○)	<input type="checkbox"/> モノの選び方 <input type="checkbox"/> 食生活 <input type="checkbox"/> 住居 <input type="checkbox"/> 移動 <input type="checkbox"/> 学び・イベント <input checked="" type="checkbox"/> その他(経済)
主な主体(該当するものに○)	<input checked="" type="checkbox"/> 世田谷区 <input type="checkbox"/> 学校・教育機関 <input type="checkbox"/> 企業・お店 <input type="checkbox"/> 地域団体 <input checked="" type="checkbox"/> 若者自身→個人
この支援策で特に応援したい若者像	例:アルバイトで忙しい高校生/一人暮らしの大学生 など自由に記入 ・環境問題解決に実際に取り組んでいる人 ・環境への問題意識はあるが、一歩踏み出せない人

2. 支援策の内容

(1)どんな支援・しくみか (具体的なイメージ)	・環境問題に関する行動(環境への負担が見える化するシステムづくり)をしている団体(地域を問わず)へ行った投資/ 寄付の額に応じて世田谷区へ支払う税金が控除される。実質的に、世田谷区→団体へ税金が移動する。
(2)この支援で、どんな行動変容を応援したいか	・環境問題に取り組む活動にお金が出る。 ・環境への興味・関心を税制という身近で考えざるを得ないものから生み出すことが出来る。
(3)期待される効果 (環境面+それ以外のよいこと)	・税制をきっかけとして、環境問題に取り組む団体に、自発的に投資を行えるようになる人の増加。 ・税制への区民の納得感が上がる。

D グループ

1. 支援策の基本情報

支援策アイデア名	環境活動支援のためのまとめサイトづくり
分野 (該当するものに○)	<input type="checkbox"/> モノの選び方 <input type="checkbox"/> 食生活 <input type="checkbox"/> 住居 <input type="checkbox"/> 移動 <input checked="" type="checkbox"/> 学び・イベント <input checked="" type="checkbox"/> その他(情報提供)
主な主体(該当するものに○)	<input checked="" type="checkbox"/> 世田谷区 <input checked="" type="checkbox"/> 学校・教育機関 <input checked="" type="checkbox"/> 企業・お店 <input checked="" type="checkbox"/> 地域団体 <input type="checkbox"/> 若者自身→個人
この支援策で特に応援したい若者像	例:アルバイトで忙しい高校生/一人暮らしの大学生 など自由に記入 環境にちょっとでも興味がある人

2. 支援策の内容

(1)どんな支援・しくみか (具体的なイメージ)	環境団体、企業(イメージアップにも)、活動などの情報を一括で見られるポータルサイト ・活動への参加 興味→活動への壁をなくす ・情報の信頼性 気軽に参加できる情報の精査 ・種類 様々な需要にこたえる すき間にも ・コミュニティの形成 新しい出会い
(2)この支援で、どんな行動変容を応援したいか	環境への興味を後押しする(のちの担い手に)
(3)期待される効果 (環境面+それ以外のよいこと)	・“活動してみようかな”につなげ、参加人数を増やす ・コミュニティの形成 ・地域の活性化

3. 交差性チェック(多様な若者への届きやすさ)

観 点	○	△/×	メモ(どんな工夫が必要?)
お金の負担は大きすぎないか		△	・この事業の維持
時間の負担は大きすぎないか (部活・バイト・家の手伝い等との両立)	○		・種類
移動しやすさ・バリアフリーはどうか	○		・オンライン 種類が増えれば
日本語が得意でない人にもわかりやすいか		△	・多言語対応
人が多い場や対面が苦手な人にも参加の余地があるか	○		・オンライン
その他、届きにくそうな若者はいないか			・興味がない人

4. メモ・追加のアイデア

・学生による運営 ・参加者による発信 ・学生以外にも、社会人など

E グループ

1. 支援策の基本情報

支援策アイデア名	自分にリターン 企業、地区別環境保全大会 (自分にも環境にもリターン、企業、地区対抗)
分野 (該当するものに○)	<input checked="" type="checkbox"/> モノの選び方 <input checked="" type="checkbox"/> 食生活 <input checked="" type="checkbox"/> 住居 <input type="checkbox"/> 移動 <input checked="" type="checkbox"/> 学び・イベント <input type="checkbox"/> その他()
主な主体(該当するものに○)	<input checked="" type="checkbox"/> 世田谷区 <input checked="" type="checkbox"/> 学校・教育機関 <input checked="" type="checkbox"/> 企業・お店 <input checked="" type="checkbox"/> 地域団体 <input checked="" type="checkbox"/> 若者自身→個人
この支援策で特に応援したい若者像	例:アルバイトで忙しい高校生/一人暮らしの大学生 など自由に記入 環境問題にまだ関心のない学生

2. 支援策の内容

(1)どんな支援・しくみか(具体的なイメージ)	・期間を決めて、地区、企業ごとに応募できるようにする仕組み ・個人にも企業にも景品、評価につながる(削減の部門ごとに%で評価) ・スポンサーをつける、省エネ、ごみ、ランク分け
(2)この支援で、どんな行動変容を応援したいか	・今は関心が薄い分野に、メリット(例:助成金、産品)を提示することで、参加、知るきっかけを作る。 ・企業、地区などの評価(会議への参加率など)を環境問題改善につなげる
(3)期待される効果(環境面+それ以外のよいこと)	・環境問題に対して、関心を持つきっかけとなり、行動にうつしてもらう。 ・取組を外部へPRできる。 ・企業、地区の評価が上がる ・ごみの量減→処理の費用、CO2 減

3. 交差性チェック(多様な若者への届きやすさ)

観 点	○	△/×	メモ(どんな工夫が必要?)
お金の負担は大きすぎないか		△	国へ負担をお願いする(Jクレジット)。スポンサーをつける。
時間の負担は大きすぎないか(部活・バイト・家の手伝い等との両立)	○		
移動しやすさ・バリアフリーはどうか	○		
日本語が得意でない人にもわかりやすいか	○		
人が多い場や対面が苦手な人にも参加の余地があるか		△	インプット、グループワーク等、色々な形で開催
その他、届きにくそうな若者はいないか	○		

F グループ

1. 支援策の基本情報

支援策アイデア名	コラボで環境意識を高めよう
分野 (該当するものに○)	<input checked="" type="checkbox"/> モノの選び方 <input type="checkbox"/> 食生活 <input type="checkbox"/> 住居 <input type="checkbox"/> 移動 <input checked="" type="checkbox"/> 学び・イベント <input type="checkbox"/> その他()
主な主体(該当するものに○)	<input checked="" type="checkbox"/> 世田谷区 <input type="checkbox"/> 学校・教育機関 <input checked="" type="checkbox"/> 企業・お店 <input type="checkbox"/> 地域団体 <input type="checkbox"/> 若者自身→個人
この支援策で特に応援したい若者像	例:アルバイトで忙しい高校生/一人暮らしの大学生 など自由に記入 環境問題に興味のない学生

2. 支援策の内容

(1)どんな支援・しくみか(具体的なイメージ)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境とキャラクターのコラボ広告(バスや電車など)で環境問題への認知率UP! ・バス乗車回数で特典(地域で使える商品券やキャラクターグッズ) ・環境活動でポイント制
(2)この支援で、どんな行動変容を応援したいか	<ul style="list-style-type: none"> ・環境イベントの参加得点をキャラクターコラボグッズにする(参加をうながす) 水筒 エコバッグ エコカイロ センズ 鉢植え 保存食・非常食 バス定期入れ PASMO ・環境に取り組み第1歩をあとおし
(3)期待される効果(環境面+それ以外のよいこと)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境を意識した生活が自然になる

3. 交差性チェック(多様な若者への届きやすさ)

観 点	○	△/×	メモ(どんな工夫が必要?)
お金の負担は大きすぎないか		△	イベントの回数やエリアを増やす
時間の負担は大きすぎないか (部活・バイト・家の手伝い等との両立)	○		
移動しやすさ・バリアフリーはどうか		?	
日本語が得意でない人にもわかりやすいか		△	海外での人気の作品等をコラボに含める
人が多い場や対面が苦手な人にも参加の余地があるか		×	映像を見てもらう形式?見た後にオンラインショップ入場可能
その他、届きにくそうな若者はいないか		△	

【第2回世田谷版気候若者会議の様子】

